

電源立地地域温排水対策調査[※]

御坊火力発電所周辺における磯根漁場開発調査

金盛 浩吉・渡辺勇二郎・竹内 照文
芳養 晴雄・金丸 誠司・小川 満也
小久保友義

目 的

産業的有用種の増産には餌生物をめぐる生態的関係の把握が必要である。御坊火力発電所建設（60万kw3基設置）に伴う海洋環境の変化は食物連鎖を通じて、高次へと移行していく。海洋環境の分布構造や機能を生物の生活様式や低次生産との関連において明らかにし、環境収容力を把握することから発電所周辺水域における産業的有用種の増産手法をみいだそうとするものである。

調 査 方 法

調査項目

1. 無機環境調査

(1)水温・塩分、(2)水質、(3)濁度、(4)底質、(5)温排水拡散調査

2. 環境生物調査

(1)プランクトン、(2)魚卵・稚仔、(3)ペントス

3. 藻場生産機構調査

(1)カジメ、アラメのペントス、(2)カジメ、アラメの群落構造

4. 漁業生物調査

(1) アワビ類

1) アワビ類、サザエおよびウニの漁獲量の経年変化、(2)標本漁船によるアワビ漁場の利用状況と生息分布、(3)アワビの殻長組成および殻長と重量との関係、(4)アワビ類の標識放流

(2) イセエビ

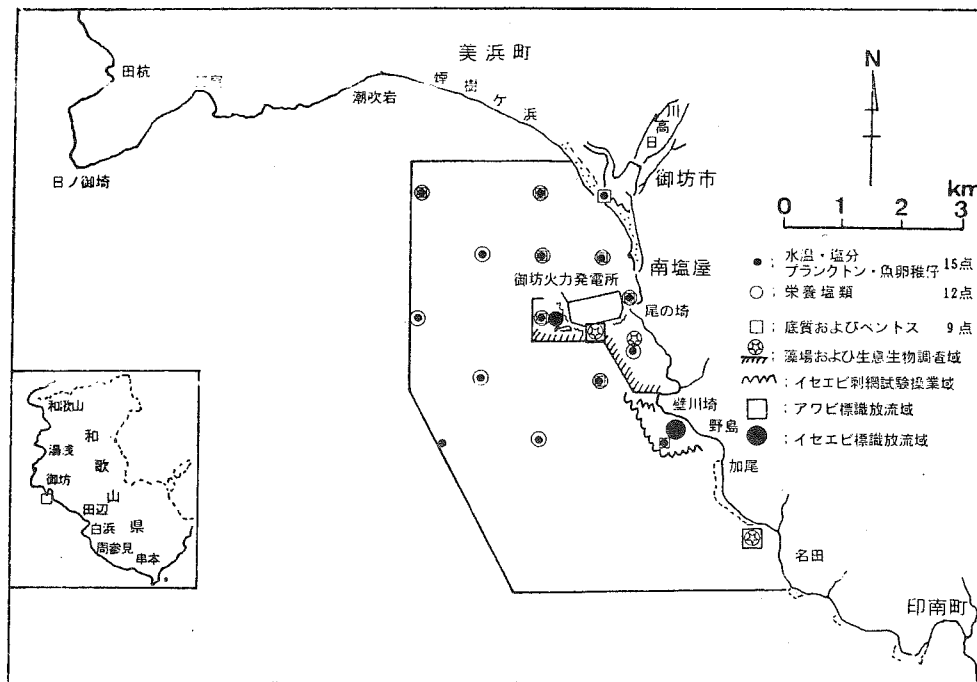
1) プエルルス調査、2) 成エビの資源調査（年齢組成、標識放流、標本漁船によるイセエビ漁場の利用状況と生息分布）

(3) 魚 類

1) 一本釣漁業における標本船調査、2) イセエビ刺網による漁獲物調査

以上の各調査項目の調査海域および調査点は図1のとおりである。

※ 電源立地地域温排水対策調査費による。



調査結果

御坊火力発電所建設に伴う環境変化が周辺海域の生物にどのような影響を及ぼしているかの検討を行ったが、今回の調査では目立った環境の変化はみられなかった。なお、詳細な調査結果については「電源立地地域温排水対策調査中間報告書（昭和60年度）、御坊火力発電所周辺における磯根漁場開発調査」に記載している。